

子育て応援しちゃいます！ わくわく城東

くすっと笑える うちの子エピソード特集!!



今でこそ知恵もつき恐がりになりましたが、2歳の頃は怖いもの知らずでどこに行ってもフラリといなくなり迷子になっていました。こっちは必死で捜すのに本人はいたって平気で、迷子とも気付いてももらえず見つかるのに手こずったものです。でもよく行くお店では、お気に入りの場所も分かっていたので慌てる事もなく迎えに行くと…いないのです。店中探しましたが見当たらずいよいよ店外の捜索かと思い、念のためもう一度店内くまなく見て回ったところ隅の角、商品棚の死角で丸くなって寝てました。あまりの呑気な姿に不安もふっとび笑ってしまいました。Yさん



うちの子は服や靴のサイズが大きいことを「ぶかぶか」ではなく「ふかふか」と言います。気づいてるのかなあ…。Hさん

うちの子はだいぶ大きくなるまで「エレベーター」を「えべれーたー」「お子様ランチ」を「おこさらんち」と言っていました。0さん

下の子が年少さんだった時の話です。それは冬の寒い夜、星座を上の子に教えていました。「あれがオリオン座」「ふーん」

それからしばらくした夜、下の子が夜空を見上げて「ママ。私あれ知ってる」「そうなん。すごいやん。教えてー」

きっとこの前の上の子との会話を聞いていたのだらうと思ったら予想外の答えでした。下の子は胸を張って私にこう言いました。「あれはいんふるえんざ」

ちょうど当時インフルエンザが猛威を振るって、会話はその手の内容が多かった気がします。それにしても「インフルエンザ」はないかも^^; T・Nさん



サッカー習いに行くのにこっそり砂場セットを持って行っていた二年生の息子。見るとサッカーして遊ぶ仲間達の裏丘で砂遊びのひとつ時を楽しんでいました。…複雑な親心ひろたんさん



6歳になる子どもが、夜、歯磨きをするのに洗面所に行った時のこと「ママ～電気がポタポタしてるよ～」

「(電球が切れてるのは)それはチカチカと言うんだよ」「早く来て～」

「はいはい」

行ってみると本当に天井の電気からポタポタと水が落ちているではありませんか!!

上の階の人が水漏れさせてしまったのでした。のぞなおさん

今回のイラスト「育児日記」より 編集の奥田です。

私は、子どもがあまり好きではありません。主人と結婚するまでは自分が出産して子育てするなんて思ってもみませんでした。

それなのに育児サークルの代表をしたり、子育て情報誌の編集をしたりしているのは、普通のお母さんたちよりも「育児がしんどい」気持ちの方がわかるからかもしれません。

4人も産んでみるとそれぞれ性格が違い、いくら自分の子どもであっても性格の合う合わないが幼児の頃からすでにあります。しかも、成長の過程なのと同じく早い月齢で同じような手こずらせ方をします。

最初は色々なことを手帳に書いてみました。食事中、口に入れたまま飲み込まない時など「早くしなさい!」と言わないで待っているために、できることを探した結果です。腹が立ったことばかりでは暗くなるので、可愛かったことやおもしろかったことも、怒りで忘れてしまいう前に短い文で書き留めました(笑)

そのうちなんとなく自分が怒るのかわかってきました。子どもにも「母も人間なのだから嫌だと感じるし、怒りもするところがある」と伝えました。

今では腹が立ったノートからおもしろエピソードのネタ帳に変わりました。

この他のエピソードはホームページ公開中입니다。
「ねJKEP」
http://www.nekomaya.net/

歴史の窓の城東区 白山神社

城東区中浜2丁目3番15号

旧中浜村にあり、菊理媛神(くくりひめのかみ)を祭神としています。大阪城の東側に位置し、城に一番近い神社です。

そのため、石山合戦と呼ばれる織田信長軍対大坂本願寺の戦いにより、社殿が焼かれてしまいました。

その後、慶長8年(1611)豊臣秀頼により再建され、400年前の社殿が現存しています。境内には、大阪府指定の天然記念物で、樹齢千年を越える大銀杏があります。

慶長19年(1614)の大坂冬の陣では、本社は徳川方の本多出雲守忠朝(ほんだいたづものかみただとも)の陣屋になりました。

忠朝はこの大銀杏に登り、大坂城内を物見したと伝わります。高い建物が全く無かった当時は、さぞや城内がよく見えたことでしょう。

忠朝は勇猛で名高い武将でしたが、翌年の大坂夏の陣で討死し、天王寺にある一心寺に埋葬されました。

現在では、酒封じの神として、彼の墓に参りに来る人が大勢います。

※江戸期までは「大坂」、明治以後は「土に返る」の文字は縁起が悪いと、「大阪」を使うようになりました。

(執筆・城東区の歴史を掘り起こす会)

陣では、本社は徳川方の本多出雲守忠朝(ほんだいたづものかみただとも)の陣屋になりました。

忠朝はこの大銀杏に登り、大坂城内を物見したと伝わります。高い建物が全く無かった当時は、さぞや城内がよく見えたことでしょう。

忠朝は勇猛で名高い武将でしたが、翌年の大坂夏の陣で討死し、天王寺にある一心寺に埋葬されました。

現在では、酒封じの神として、彼の墓に参りに来る人が大勢います。

※江戸期までは「大坂」、明治以後は「土に返る」の文字は縁起が悪いと、「大阪」を使うようになりました。

(執筆・城東区の歴史を掘り起こす会)

よんでみてオススメ絵本

一たのしいうたの絵本一

「いっしょにうたって!」「いっばいうたって!」

こぐま社 ましま せつこ・絵

世代を超えて読み継がれている絵本があるように世代を超えて歌い継がれてゆく歌もあります。子どもと一緒に歌をうたいましょう。声を合わせて歌えば自然に心が寄り添ってきます。月日が流れても歌とともにたくさんの思い出があふれてくることでしょう。全曲楽譜付きです。

こっちも楽しんでね

城東図書館イベント

城東区新喜多東 1-1-7 ☎06-6963-5680

水曜おたのしみ会
毎週水曜日 15:30~16:00

えほんのひろば(土曜おたのしみ会)
毎月第2土曜日 14:00~14:30

水曜日は「城東おはなしの会」、土曜日は「城東絵本の会」のみなさんによる楽しいプログラムです。

11月は虐待防止月間です



虐待はあなたの周りでも起こる可能性があります。「ひょっとして虐待かな?」と思ったら、ためらわずに連絡してください。

児童虐待ホットライン

(大阪市こども相談センター)

☎ 0120-01-7285

24時間対応・年中無休・携帯電話からも可

オレンジリボン運動は「子どもの虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。

『うまれてきたんだよ』
文：内田麟太郎
絵：味戸ケイコ
解放出版社
※現在品切れ中です。図書館等の蔵書でご覧ください。

『まねっこでいいから』
文：内田麟太郎
絵：味戸ケイコ
瑞雲舎

幼い子どもは自分が「虐待」されていることがわかりません。助けを求める手段を知りませんし、助けてもらおうという発想自体がない場合もあります。ここでご紹介する絵本には一部衝撃的な内容も含まれていますが、あえて選んでいます。

または、お住まいの区の保健福祉センター子育て支援室、お近くの民生委員・児童委員、主任児童委員、あるいは最寄りの学校までご相談ください。

「だいじょうぶの絵本」は3冊のシリーズです。文・絵 安藤由紀 岩崎書店

それぞれの巻末に関連する解説を収録しています。

『いいタッチわるいタッチ』 『わたしがすき』 『あなたはちっともわるくない』

編集 奥田・平田・仲西・藪内・橋本・上野・柳・若槻
イラスト 桑原

10月発行の『わくわく城東』17号で募集しました「うちの子エピソード」に多数のご応募ありがとうございました。現在は受け付けを締切っています。プレゼントの発送も終了しています。

同誌面でお知らせしていた「クリスマスコンサートのチケットプレゼント」も受け付けを締切りました。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

これからも『わくわく城東』をよろしく願います。